

# 自己紹介しろや と言われたのです 自己紹介 **1**

「幼少偏」

一体どこまで続くのですか？  
と尋ねられようが延々と続く  
自己紹介の電子書籍化！



僕は生れは1961年4月10日生まれ、丑年でござい  
ます。神戸は長田区という処に生まれ、今も長田区に住んで  
います。おそらく地球上で長田が一番好きなんだと思います。

幼稚園は尻池幼稚園という所に通ってありました。幼稚園  
の頃の写真を見ると、ほとんど僕がどの集合写真にも写って  
おりませんので「本当にオレはこの幼稚園に行ったのか」と  
お袋に聞くと「行った」という。

なら、どうしてどの写真にもオレが写っていないのだと聞くと「いつもアンタは一人運動場を走っていたから」と、な  
んとも想像を絶する答えが返ってきました。昔は、一人や二  
人居なくも、あまり気にせず集合写真を撮っていたのか、と  
感慨に耽っていると「いや、あんただけや」とそっけなくい  
われました。

当時から団体行動や、組織というものにはあまり馴染まな  
かったようです。

小学生になっても、あまり団体行動をせず、他の学生を驚かしてイタズラばかりしている子供だったようです。とくに覚えていているのはチンパンジーを家で飼っているクラスメートがいましたので、そのチンパンジーを学校に連れて来いと唆しました。

その友人も何を思ったのか、自分の飼っているチンパンジーを本当に学校に連れてきました。

そのチンパンジーを見た時、僕は凄いアイデアが閃き、そのチンパンジーを運動場の真ん中に連れていき、チンパンジーに付けられている首輪を放してやりました。

するとそのチンパンジーは喜んだのか驚いたのか知りませんか、校庭を走り出しました。

友達は泣きながら捕まえようとするのですが、そんなチンパンジーが簡単に人間に捕まるものではありません。

勝手がわからない先生が110番したのか、学校にはパトカーやら消防車などが集まり出しました。人が集まり出して興奮したのか、チンパンジーは校舎をあちこちと伝わって逃げ回りました。そうこうしていると新聞記者みたいな人たちも勝手に駆けつけて、思わぬ大騒動になりました。

血相を変えた先生に「あれは誰のサルだ！」と聞かれまして、僕は「筒井の家のサルです。筒井が学校に勝手に連れてきてました」と、他人事のように答えました。

筒井という友達は、泣いていました。

まあ、日々そんなイタズラをして遊ぶ明るい小学生でした。



中学校は垂水区の歌敷山中学へと通いました。

校舎の教室からはなだらかな瀬戸内海が見え、春などは行き交う船の汽笛なんかが聞こえてとても気持ちよく眠れる環境でした。中学でも相変わらず皆を驚かさずばかりしておりました。特に先生を驚ろかしては、授業を中断させてクラス受けのよいイタズラもしておりました。



教室の窓は全面外からのボールの飛来を避けるため、金網が設置してありました。窓から金網までの空間は、人ひとりがギリギリ入る隙間であることに気づきました。その空間にクラスメートを挟み、窓を閉めてカーテンを引き締めておりました。授業が進む中、外から「助けて〜」という声が聞こえてきます。不思議に思った先生は、おもむろにカーテンを開けます。すると窓と金網に挟まって、大の字に動けない生徒がいるではないですか！

女性教師は、そこに腰を抜かして驚いておりました。

名づけて「人間昆虫採集」と名付けた、このイタズラはト  
ップ5に入るトリツキーな作品となりました。が、後で数人  
の教師に凄まじく怒られた度合もトップ5に入るほどでし  
た。黒板のチヨークをすべてクレパスに入れ替えて、黒板一  
杯に先生が書いた文字全てが消えない！というイリュージョ  
ンも生徒には好評でしたが、これも後の制裁は凄まじいもの  
でした。

女生徒にもよくイタズラをしたものです。しかし、最後はクラスの全女子生徒が一致団結して、全員で僕をプールまで連れていき。プールの中に投げ込まれた！という逆襲もありました。女性を度を超えて怒らせてはいけない、という教訓をこの時に激しく学びました。

高校は兵庫県立北須磨高校という進学校へいきました。

クラブは中学からしていた野球部に入りました。

人を驚かすパフォーマンスも高校へ入ってからも止まず、さらに磨きをかけて周囲を驚かせていました。なんか女性教師もよく驚かせ、その度に生徒指導の先生にこっぴどく怒られてました。ほとんど毎日昼間の休憩時間には校内放送で「2年〇組のウシオダ、職員室まで」と呼び出されていたものです。その関係で僕の名前は全校生に知られることにな

りました。こっちは知ってない相手からも、よく呼び止められました。

イタズラだけよりも、この頃にはイベントも開催していました。一番記憶に残るのは「全クラブ対抗麻雀大会」です。ある複数教室の合同自習時間の時、各クラブ（体育会、文化系問わず）の代表を呼び集め麻雀大会を主催しました。

3年生から2年生へ世代交代した時期だったので、バレー部、野球部、サッカー部、柔道部などのキャプテンクラスの生徒を参加させました。豪華メンバーです。

ゲームはエキサイトして小銭を賭け始めました。もちろん僕のアイデアで。僕が一人勝ちして場のお金を集めようとした時、僕のその手を遮る手がありました。生活指導の最も恐れられていた先生でした。みんなゲームに集中して、先生が入ってきたのに気が付かなかったのですな。

これは学校上げての大問題になりましたねえ。なにせ賭博に関わっていたのが将来を担うキャプテンクラスの生徒ばかりだったからです。もちろん首謀者は僕と言うことで、校長訓示まで聞く羽目になりました。そして最終的には高校野球連盟から僕は除名されて、野球部を追い出されました。

えらい目に遭いました、全く。

まあ、それがきっかけで放課後はフリーになったので、三ノ宮や元町に大好きな映画を観に行くきっかけになったのです。好みの女子生徒を誘って、ダダーツと学校をよく脱出してたものです。

でもこの映画通いが、卒業後芸能界で演出という仕事をしようと思ったきっかけにもなりました。だから僕の学生時代にしたことは、すべて正解だったということですよ



高校時代に映画に撮り憑かれた僕は映画の世界で演出とか脚本家の世界をめざしました。志せば高校の在学時代から、脚本家の養成所に通いました。

夢は演出家か脚本家です。

2年間の養成時代を終えましたが、業界になんの縁もない人間では、そう簡単に成れる世界ではありません。

仕方なく習作を兼ねて、アルバイト生活をしてました。仕事は三ノ宮にあるターミナルホテルに先輩の紹介で入り、サーバーの仕事をしていました。アルバイトから正社員になり、ロビー喫茶で働いておりました。

実は人にお茶を汲む仕事なんて、僕にとって一番成りたくない仕事だったです。退屈と苦痛以外の何物でもありません。

物書きを目指してましたので、本は常に読んでいました。

そして当時出会ったのが「願望を叶える信念の魔術」という東海大学の教授が書いた一冊の新刊書です。今でいう「引き寄せの法則」の走りみたいな本でしょう。当時はそういう内容のものはまだありませんでした。

思っただけで自分が描くイメージが実現する。

そんな簡単に事が進めば苦労なんかするかいなッ！との思いもありましたが、その時の生活を脱却して自分が描く仕事に就きたくて、その本に書かれてある事を実行しました。

すると、、、

1カ月後に僕は商業演劇の演出部で仕事をしていたので  
す！

願望をゼツタイかなえる

# 信念の魔術

東海大教授 謝世輝



絶えず強く信念せよ！  
繰り返し念じるのだ！  
あらゆることが  
願望達成に向かって動き出す！

LONGSELLER MOOK SELECT FOR READING PLEASURE 186

おわりに

最後までお読みくださり、ありがとうございます。本書  
を読んだのご感想などが、仮にでもございましたらフェイス  
ブックよりメッセージを頂ければ嬉しく思います。

牛王田 雅章（うしおだまさあき）

<https://www.facebook.com/u.masaki>